

## 『悪魔との戦い②』

'23/06/11

聖書箇所:エペソ人への手紙 6章 10-14節(新約 p.381)



この1年、私たちが学んできた、「エペソ人への手紙」もいよいよ終わりに近づいてきました…。その最後の部分で、パウロが私たちに与えてくれた警告について、先週から学んでいます…。それは、悪魔との戦いでした。「悪魔は実在する！」…そう、はっきりとみことばは教えてくれています。しかも、その悪魔は、クリスチャンという存在を目の仇にして、日々、策略を立てて、皆さんを惑わし、皆さんを陥れて、皆さんから神の祝福を奪おうとしているのです…。

### 命題: 悪魔との戦いに勝利するためには？

じゃあ、一体…、どうしたら、私たちクリスチャンは、悪魔の策略に対して立ち向かい…、その中で、日々、勝利していくことができるのでしょうか？ちゃんと、聖書のみことばは、私たちクリスチャンたちが、その悪魔に対抗できるようにと、その対抗策を教えてください。それが、エペソ 6:10-20 までのみことばです。話の流れもありますので…、今日は、エペソ 6:10-17 までをお読みしたいと思います。なお、今日のところは、14 節までしか学んでいくことができません。

10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。

12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。

14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

15 足には平和の福音の備えをはきなさい。

16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。

17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

### I・神の力 をいただく！(10-12 節)

私たちが、悪魔との戦いに勝利するために必要なこと…、その第1番目は、神様からの力をいただく！ということでした…。これに関しては、先週に学んだことですが、もう1度、先週の復習と併せて、簡単に確認していきましょう…。

まず、11 節をご覧くださいと、『悪魔の策略に対して…』と書かれていますように、悪魔からの、皆さんに対する攻撃というようなものは、直接的なものではありませんでした…。例えば、先週確認したように、悪魔は、その昔、エデンの園に居たエバのことを誘惑したり、あるいは、義人であったヨブという人物の財産を奪い…、その家族やヨブ自身の体にも攻撃を加えたりしました…。しかし、そういったような例は、あくまでも特例と言うか…、極々わずかであって…、そういったようなことは、ほとんど起こり得ません…。

そうではなくて…、今回のみことばが教えてくれていることは、悪魔からの攻撃というものは、回り回って…、私や皆さんのことを苦しめるのです。だから、聖書のみことばには、『悪魔の策略…』とあったり、また、『私たちの格闘は血肉に対するものではない』、というように書かれています…。

先週学んだように、悪魔からの攻撃とは、まず、私たちのことを惑わせることです…。あの、エデンの園にあって、エバが惑わされたように、悪魔は、すべての人たちを惑わせようとします。そうして…、あのアダムさえも神様に逆らって罪を犯してしまったように…、私や皆さんを神様に逆らわせて…、罪を犯させることを悪魔は願っているのです…。皆さん…、黙示録 12:10 に、悪魔の別名が記されているのですが…、そこに何とあるかご存知ですか？こうあるのです、『…私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者(が投げ落とされたから…)]』って…。何と、悪魔は、私たちが罪を犯すように誘惑しておいて…、そして、もしも、私たちが罪を犯してしまったら、その私たちの罪を神様に告発するのです！「ほらっ！この者は、こんな罪を犯しましたよ！こんな愚かなことを…、こんな淫らな罪を犯しているじゃないですか！」って…。実は、悪魔がヨブを誘惑したのも、そういったことのためでした…。

また、悪魔は、クリスチャンで無い人たちをも惑わします…。皆さんも、よくご存知だと思いますが、ある時、イエス様は、種蒔きの例え話をしてくださいました…。1つは道ばたに…、別の1つは岩の上に、また、別の1つはいばらの中で、最後の1つは良い地に落ちた、という話です。その話の解き明かして、イエス様は、こう説明してくださいました。ルカ 8:12、『道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。』って…。悪魔は、自分には救いがないことをよく分かっています。悪魔の最後は、永遠の裁きであり…、永遠に続く地獄の中で、『昼も夜も苦しみを受ける…』(黙示録 20:10) ことです。だから、悪魔は、少しでも多くの者を、その道連れにしようとしているのです。

悪魔は何人もいるわけではありません。たった1人です…。しかし、悪魔に味方する輩は、たくさんいるのです。それが、所謂、「悪霊」などと呼ばれるような存在です。悪魔は唯一であっても…、悪霊たちのグループは数多く存在します。しかも、その悪霊たちの1人でさえ、私たち人間よりも、知恵や力があるので…、このことは、悪霊ではなく、良い方の御使いに関する話ですが…、マタイ 28:2 には、こんなことが記されています、『…主の使い(単数形)が天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわった…』って…。これは、イエス様を葬った時、そのお墓に封印をした…、あの大きな石のことです。御使いは、そのように、私たち人間とは比較にならないほど、力もあるのです…。また、御使いたちは、私たち人間のように死んだりもしません…。だから、知識だけでなく、その知恵も増し加わっていきばかりです…。悪魔は、そういったような悪霊たちの中だけではなく…、すべての被造物の中で、1番、知恵も力もあるような存在なのです…。

だから、聖書のみことばは教えます、「悪魔のことを意識しなさい！神の力をいただきなさい！悪魔に対抗できるよう、神様によって強められなさい！」って…。何故なら、そうでないと、私たち人間は決して、悪魔に対して勝利するどころか…、様々な策略や惑わしなどといったものに対して、絶対に勝利できないばかりか…、ほとんど対抗することさえもできないからです。

ここ 12 節に、『私たちの格闘は…』とありましたが、この言葉は、私たちの経験する戦いが、集団的な戦いではなく、個人的な戦いであるということをお教えしてくれていました。「クリスチャンになったら、神様が私の代わりに戦って、勝利してくださる…」とは、みことばは教えません。そうではなくて…、クリスチャンになったから、私やあなたは戦わなければいけなくなったのです。だって、それまで…、救われる前の私たちは、実は、悪魔の側に居たからです。意識こそしませんでした…、確かに、かつての私たちは、『この世の流れ…』(エペソ 2:2) に従って生きてきていましたし…。実は、そのような、『この世の流れ…』というものは、悪魔たちが作り出していたものであったのです。「私たちの代わりに、神様が戦ってくださる…」とは、みことばは教えません。悪魔との戦いは、イエス様を信じて、救われたクリスチャン全員が経験すべき戦いであり…、また同時に、試練でもあるのです…。幾つか、新しいことを付け加えさせていただきましたが…、そこまでが、先週に学んだことでした…。

## II・神の 武具 を、しっかりと手にしていく！（13-17 節）

今日と次主日とで、私たちが学んでいきたい内容は、神様の与えてくださる武具というものを、私たちがしっかりと手にしていく！ということです。それなしに…、弱く、愚かな私たちが、恐ろしく狡猾な悪魔と、そのグループに対して立ち向かっていくなどということは到底、できないからです…。ですから、しばらく、神の武具というものについて…、また、それらを取るものの必要性について学んでいきたいと思えます…。

### ● 神の武具を持つ 必要性（13 節）

どうぞ、まずは、13 節をご覧ください…。『ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。』とあります。実は、この、『神のすべての武具をとりなさい！』という命令文には、「アオリスト命令法」という文法が使われてあります。基本的に、現在命令法の方は、その命令が継続されるべきことを強調する時などに使われます…。それに対して…、このアオリスト命令法の場合は、その命令が緊急であることを訴えるものなのです。「早く！今すぐに、神の武具を取りなさい！」と、みことばは訴えるのです。

その理由は…、ここに書かれてあるように、今が、益々、『邪悪な日』になりつつあるからです。いや、このみことばは、今から 2000 年も前に書かれたみことばですから、今、もう既に、邪悪な日であると言って良いかも知れません。何故なら、悪魔との戦いは、もう既に始まっているからです！残念なことに、この世に生きる…、多くの方々が悪魔の影響を受け…、悪魔によって惑わされてしまっているからです。パウロは、世の終わりに関して、神様から靈感を受けて、このように預言しました…。II テモテ 3:1-5、『1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、5 見るところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。』って…。

実に、残念なことですが、今、読んだ多くの部分が、今の、この時代と合致しています。でも…、何度も言いますが、これらのみことばは、今から 2000 年も前に書かれたことなのです！確かに、そういったような傾向は、2000 年前からもあったでしょうが、今は、益々、こういったような傾向が顕著になってきています…。それは、言い換えれば、益々、悪魔が必死になって、この世の中を、そういった方向に引っ張ってきている…、この世が惑わされてしまっている！ということでもあるのです…。

それと同じようなことをイエス様も、預言してくださいました…。そのことが、マタイ 24 章に書かれています…。その少し前の、マタイ 24:3-14 からお読みしますので、皆さんも、ご覧ください。『3 イエスがオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりに、どんな前兆があるのでしょうか。」4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。5 わたしの名を名の者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しめめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。10 また、そのときは、人々がだぜいつまりずき、互いに裏切り、憎み合います。11 また、にせ預言者が多く起こって、

多くの人々を惑わします。12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民(こくみん)にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。』

今、読んだみことばにも、先程と同じように…、幾つもの点で、今の時代と合致していました…。しかし、特に、最後の 14 節に注目してみてください…。イエス様の福音が、『全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が』来る、とありました。この「御国の福音が全世界に宣べ伝えられる」という預言は、100-200 年で実現できる預言ではありません。もっと、長い年月がないと達成できないのです！…しかし、それが今、達成できる目前なのです。…そうでしょ？

もちろん、イエス様は、すべてを御存知でした…。しかし、このみことばを書き記したマタイも…、実際に、福音を伝えていった弟子たちも、2000 年前の一般人でした…。当時の者たちは、この世界が如何に広大であるか、どの程度、知っていたのでしょうか？…当時の者たちは、「全世界」と言っても、その広さがどれほどのものか知らなかったでしょう。…と言いますのも、その当時はまだ、アメリカ大陸も…、オーストラリア大陸も、まだ、発見されていなかったのです…。それどころか、弟子たちは自分たちの住んでいる地球が、実は、球体で…、それがどこまで広がっているのかということさえ、よく知らなかったはずなのです…。

こういった言い方は、あまり良くないかも知れませんが…、イエス様を信じない未信の方からすれば…、その当時の、イエス様の教えとは、まあ言えば、今で言うところの、「新興宗教」のようなものです。しかし、「この教えが、世界中の隅々に至るまで広まっていく！」と、みことばは教えてくれています。恐らく、未信者の誰もが、そんなことが実現するとは夢にも思わなかったでしょう…。しかし、実際は、その預言通りになったのです！今や、この聖書のみことばは、約 2400 の言語に翻訳され…、人口比率で言うと、90% 程の人が、母国語で、聖書を読むことのできる環境にあるそうです。つまり…、聖書が予言するところの、「この御国の福音が全世界に宣べ伝えられて、それから、終わりの日が来る…」という、『世の終わり』は、もうすぐ、そこまで来ているのです…。

だから、みことばは教えるのです！「早く、しなさい！今すぐに、神の武具を手にとりなさい！」って…。何故なら、戦いの場合、その戦うべき相手が、目の前に迫ってから…、あるいは、攻撃が始まってから…、武具を装着していたのでは、遅過ぎるじゃないですか！戦いがあることが分かっているから…、悪魔が私たちが惑わそうとしていることが間違いないから…、だから私たちは、一刻も早くに、神の武具を手にするべきなのです！

それと、もう一つ…、私たちが今から見ていくような、神の武具を手にしていくことによって…、クリスチャンとしても成長できる、ということが教えられてあります。それが、エペソ 6:13 後半の、『…いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように…』という部分です。ここにある、『いっさいを成し遂げて…』という表現は、「すべてを成し遂げる…」とか、「完成していく、完了する…」という意味で、当然、これは未来のことを言っています。私たちが神の武具を手にしていくことによって…、益々、クリスチャンとして成熟させられていく、というわけなのです…。

その後でも、『堅く立つことができるように…』と教えられてあります…。私たちが、神様の与えてくださる武具を手にし、それらを装着していくことによって、私たちは、より強く…、より屈強な「キリストの戦士」となって…、様々な教えに流されにくくなるだけでなく…、しっかりと、その教えに踏みとどまり続けていくことができるのです。

…ということは、逆に言うと…、もしも、私たちが、これから見ていく神の武具を手にしよとしないのなら…、私たち自身が成長していく機会をみすみす逃してしまう…、ということでもあります。確かに、みことばは教えます…、「神様が、私たちクリスチャンを成長させてくださる…」って…。だから、前回に学んだように、

聖書の多くの部分は、受動態(=受け身)で書かれてあるのです。しかし、間違いなく…、私たちの成長といったものは、すべてが強制的に(=自然に)行なわれていくものではありません…。確かに、ある部分やある状況によっては、そういった部分もあるかも知れませんが…、多くの場合、私たちの決心が必要なのです…。神は、私たちの意志や選択、または、私たちの信仰や行動を用いてくださるのです。だからこそ、みことばは、そういったことを命令形でもって…、私たちに教えてくれるわけなのです…。そういったわけで、私たちは、自分たちが罪を犯してしまったり、あるいは、霊的に成長できなかった原因やその責任を、神様に対して問うことはできないのです…。

#### ① 真理の帯(14節)

それでは、今から、『**神の武具**』と言われるものを、順番に見ていきましょう…。まずは、『**“真理”の帯**』です…。「帯」という装具は、ごく基本的なものです…、それ故に、非常に重要なものであります…と言うのも、この当時、ローマの多くの人たちは、首や腕のところが開いたような長い…、ダボダボしたような服を着ていたからです…。もし、皆さんが、「ベン・ハー」や「テルマエ・ロマエ」などの映画をご覧になったことがあるなら、ある程度、お分かりになっていただけたと思います…。

普通にゆっくりと歩いたりするだけなら、特に問題ないかも知れませんが、ここで言われていることは格闘です。ですから、そういった長い服をしっかり固定しないと、服そのものが邪魔になって、到底、戦うことなどできません…。だから、当時の人たちは、激しい運動や戦いなどをする時には必ず…、革製のベルトなどを腰に巻きました。そうすることによって、戦い易くなるわけです…。ですから、『**帯**』というものは、ある意味において…、そういった装備の内、最も初めにつけるべき…、基本的なものだと言い得るでしょう…。

イエス様は、ヨハネ 14:6 で、『**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです…**』と教えてくださいました…。いつも言うことですが…、ここで話されている内容は、「わたしこそが、すべての道の中で、唯一の正しい道であり…、わたしがすべての教えの中で、唯一の真理であり…、わたしこそが唯一のいのちの源のみことばである…。」ということです。だから、イエス様は、そのすぐ後で、『**わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません**。』と教えてくださったのです。

この世の中に、数限りなくある教えや神々の中で、イエス様こそが…、いえ、イエス様だけが真理です！それと同時に、イエス様が残してくださった(=直接的には弟子たちであっても、間接的に…)、この聖書のみことばこそが誤りのない真実なのです！だから、聖書の言葉は、書かれて 2000 年、3000 年も経った今でも、多くの人たちに愛され…、多くの人たちを変え…、多くの人たちに感動と希望…、また、神様からの祝福を与えることができるのです！皆さんも、そうですね！だから、私たちは、多くの犠牲を払って…、このみことばを学び…、みことばを実践しようとしているわけじゃないですか！

この真理とは、悪魔に対抗する上で、『**帯**』に相当する…、無くてはならないような、最も基本的なものなのです。何故なら…、悪魔とは惑わせる者だからです。悪魔が言うことは偽りばかりです。どうぞ、ヨハネ 8:44 をご覧くださいませ？ここで、イエス様は、イエス様のことを偽って信じたと告白した者たちに対して、こんなことをおっしゃっています。『**あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです**。』って…。

改めて言うまでもないでしょうが…、悪魔の内に真理はありません。そうして、真理のないところには、平安も…、感謝も…、本当の自由もありません…。あの古い蛇に姿を変えた悪魔は、「あなたがたは決して、死にません！あなたがたは、神のようになる…。」と言って、エバのことを欺きましたが、実際には、エバたち

は、すぐには死ななくても、必ず、死ぬ者となってしまい、それだけでなく、恐怖や戸惑いに満たされ、神様からの祝福も失ってしまったでしょ？…そのように、罪が私たちにたらしてくるは、ただ…、一時の快樂や自己満足だけで、その後には、大きな恐れや不安が私たちを襲ってきます…。多分、皆さんも、そういったようなことを経験されてきたのではないのでしょうか？例えば…、私たちが何か嘘をついたり…、人を欺いたりした時に、そこに平安や感謝がありました？…いいえ、恐らくは、何か後ろめたいような…、私たちの心の内側から責めが起こってきませんでした？なかなか寝付けなかったり…、いつも、何かにおびえて…、びくびくしていたり…、というような感じです。

もしも、私たちがそういった真理から離れ…、それ以外のものを求めるなら…、そこにだって、神の平安はありません…。何故なら、クリスチャンである皆さんは…、神様によって、もう既に換えられているからです。そういったことを、私たちは、エペソ書 4 章迎りて学んだはずですよ！だから、**イエス様も、ヨハネ 17:17 で、『真理によって彼らを聖め別つてください。あなたのみことばは真理です。』**ということを教えてくださったのです…。クリスチャンである皆さんは、もう既に、真理を手にしておられます…。でも…、だからこそ、その真理から離れるのではなく…、益々、真理というものを追求していく必要があるのです！

先週に学んだように、悪魔は、直接的な攻撃ではなくて、様々な悪だくみ…、つまりは策略をもって、私たちのことを欺こうとします。そんな悪魔の策略に対して、1番有効なのは真理じゃないでしょうか？「神の真理」こそが、私たちには必要なのです！悪魔は、皆さんが、真理を追い求めることを喜びません…。何故なら…、そこに悪魔の付け入るスキは無いからです。しかし…、私たちが真理を追い求めることをせずに…、ただ、惰性でもって、生きていだけなら…、私たちは、いつまで経っても、悪魔に惑わされ続け、様々な誘惑に対しても敗北や挫折といったようなことを経験し続けなければならないでしょう…。どうか、神の真理を求め続け…、神の真理に立つ者であってください！

#### ② 正義の胸当て(14節)

次に見たいのは、『**正義の胸当て**』です…。当時のローマ兵たちは、まず、腰に帯を締め…、そして、その上に硬い鎧を着けていました…。まずは、『**胸当て**』でした…。それによって、体の大切な、心臓などがある胸の部分を守ったようです。この当時、胸の辺りは、「心、感情、意志」などをコントロールしていると考えられていたそうで、そういった部位を守るために、必要なものは正義である！とみことばは教えてくれているわけです。

先程の真理の場合と共通している部分があるかも知れませんが…、例えば、皆さんは、どういった時に、自分の心や感情、あるいは、意志などが乱されたりします？…確かに、私たちは、自分の思い通りに事が進まない時や…、突如、予想もしなかったようなことが起こった時などに、うろたえたりします…。確かに、そういったことで、不満や愚痴…、悲しみや嘆きなどが出てきたりすることもあるでしょう…。

でも…、そういったこと以上に、私たちの心や感情をかき乱すものがあることも、**これまた、皆さんはよくご存知だ**と思います。それは罪です…。例えば、あのダビデ王は詩篇 32 篇で、こう教えてくれています。詩篇 32:2-5、『**2 幸いなことよ。【主】が、咎をお認めにならない人、その霊に欺きのない人は。3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髄は、夏のひでりでかわききったからです。セラ 5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました、「私のそむきの罪を【主】に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ』**

このみことばで、ダビデは、自分の犯した罪の故に…、ま、自業自得とはいえ、死ぬほどの苦しみを味

わっていたことを告白してくれています…。このように、罪は、時として、私たちに死ぬほどの苦しみをもたらしてしまうのです。私たちも、同じ経験をしてきたのではないのでしょうか？罪を犯して…。そういった罪を隠そうとして…。益々、罪の深みに落ちていく…。そういった時の苦しみを、多分、皆さんはご存知です。…と言いますのは、私たちを救い、今、私たちの内に住んでくださっている聖霊なる神様は、聖く…。義なる神様だからです。私たちが罪を犯し…。それを神様の前に正しく悔い改めることをしないと、私たちの内に住まわっている聖霊なる神が悲しまれます…。エペソ 4:30 に、『**神の聖霊を悲しませてはいけません。**』と教えられてあるように、もしも、私たちが聖霊を悲しませてしまうなら…。そういったことを継続してしまうなら、私たちの内に住んでくださっている聖霊は、ますます、その力を失くしていってしまうでしょう…。

**だから、みことばは、私たちに教えてくれているのです、「正義だけを追い求めて、それを行ないなさい！」**それこそが、あなたの心と感情を守ってくれるから！」って…。確かに、難しいことかも知れませんが…。もしも、私たちが正義だけを…。神様が喜んでくださることだけを行ない続けることができたとしたら…。私たちの心や感情が悪魔の誘惑や策略などによって乱されることは、そうそう、無いのではないのでしょうか？

旧約聖書のみことばを見てみますと、神様が正義を愛しておられるが故に、その神様を信じ従おうとしている私たちもまた、正義を追い求めるべきことが、何度も何度も教えられてあります。例えば、創世記 18:19、『**わたしが彼(＝アブラハム)を選び出したのは、彼がその子らと、彼の後の家族と共に命じて【主】の道を守らせ、正義と公正を行わせるため、【主】が、アブラハムについて約束したことを、彼の上に成就するためである。**』とあります。そして、すぐ後の 20 節以降で、神は、あのソドムとゴモラの町に関する問題…。つまり、彼らの罪と裁きについて語っておられます。…言わば、ソドムやゴモラの町には、正義が行なわれていなかったため、それで、ソドムとゴモラの町は滅ぼされたとも言い得るわけです。

それと、あのモーセもまた、約束の地カナンを目前にした、イスラエルの新しい世代に対して、こう語っています。申命記 16:20、『**正義を、ただ正義を追い求めなければならない。そうすれば、あなたは生き、あなたの神、【主】が与えようとしておられる地を、自分の所有とすることができる。**』という部分です。実は、ここの部分は、モーセが役人たちの任命について語っているのですが、でも、神様は役人たちだけに正義を要求しておられるわけではありません。あくまでも、彼ら役人たちは民の模範なのです。

だから、例えば、詩篇 106:3 にも、『**幸いなことよ。さばきを守り、正義を常に行う人々は。**』とあります。このように、特に、詩篇や箴言、また、預言書には、主を信じる者たちに対して、(あまり好ましくない表現ですが)くどいほど、こういったこと…。つまり、「正義を追い求め、正義を行なえ！」ということが繰り返し教えられてあります。

でも、悪魔は、巧妙にも、そういったところを突いてくるのです！皆さん、知ってました？…実は、悪魔は、皆さんに、無理矢理、罪を犯させることはできません…。ヤコブ 1:14-15 のみことばにも、『**14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。15 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。**』と教えられてある通りです。まず、このみことばが教えてくれている通り、欲というものは、罪になり得ますが、欲そのものは罪ではありません…。

多分、皆さんは、つい先週に学んだ、あの創世記 3 章前半のエピソードを覚えておられると思います。…確かに、あそこで悪魔は、エバのことを誘惑しました。「本当に、神は、そんなことを言われたのですか？…善悪の知識の実を食べても、あなたは決して死にません！それどころか、その禁断の実を食べて、あなたは、まるで、神のようになり、善悪を知ることができるようになるのですよ！」って…。そうやって、悪魔は、エバが持っていた欲望や無知？あるいは、何らかの不満のようなものを刺激して、誘惑したのです。…そのように、悪魔は私や皆さんを誘惑したり、欺いたりすることはできても…。無理矢理、私たちに“罪を犯させる”ことはできないのです…。

<励ましの言葉>

**だからこそ、皆さん、どうか、覚えておいてください！最終的な判断・決断は、常に、私や皆さんの側にあるのです…。**だから、神は、罪の責任を私や皆さんに対して問われるのです！…と言いますのは、常に、私たちの前には選択があるからです。それは、神様の前に、正しいこと…。正義を行ない続けるか、そうでないかの選択です。もしも…。私たちが、「正しいことだけを選んでいこう！」というような、強い意志を持つとしないのなら…。私たちが、この、『**正義の胸当て**』を装着することは叶いません…。

**そこには、あの屈強で、ずる賢い悪魔の前に、何の鎧も着けていない…。無防備な姿があるだけです…。**皆さんは、そのような姿で、何年も…。何十年の間…。悪魔が支配しているような、こんな世の中で、悪魔の策略にはまることなく…。また、敗北することなく、生きていくことができるでしょうか？そんなことは、絶対に無理です！

**それが、神様の力によらず…。自分の力や自分の知恵だけで生きていく、ということです。**前回学んだように、悪魔は、被造物の中で、最高に知恵も力もある存在です…。ですから、もしも、私たちが自分の力だけで、この世の中を歩んでいこうとされるのなら…。そこにあるのは、敗北に次ぐ敗北です。また、神様を信頼しない人生です…。神様の栄光を現わす人生ではなく…。自分のために生きて、すぐまた、挫折してしまう人生です…。正直、私は、そういったクリスチャンたちを何人も知っています。きっと、皆さんも、そうじゃありません？(泣)

どうか、皆さん…。そうではなくて…。今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、神様だけを信頼して…。神様の武具(今日のところは、真理と正義)を手にして、与えられた人生を歩んでいってくださることを期待いたします…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます…。